

平成23年10月16日 『県民主催タウンミーティング』 主な発言要旨及び施策への反映状況調

集会での発言		参加者の発言に対する県の考え方	所管課
参加者発言内容	知事等発言内容	概要	部・課名
【農業への投資のためのファンドについて】			
○補助金に頼るという時代ではない。民間のお金の活用という話もあった。ファーマーズファンドの創設はできないものか。	<p><知事> ○大いに研究したいと思う。農業の問題を解決するのに農家の人達だけが悩んでいても解決されない。補助金を増やすのは、TPPとの関係であり得るのかもしれないが、補助金頼みでは財政は持たない。ファンドを研究していく余地はある。</p>	<p>○ファンド活用の前提となる「株式会社農林漁業成長産業化支援機構法案」が国会に提出(H24.2.7 審議中)されました。 ○国の「産業連携ネットワーク」に長野県農政部として参加し、情報収集を行っているところです。</p>	農政部 農業政策課 (農産物マーケティング室)
【シナノゴールドの海外での権益について】			
○シナノゴールドの契約について、ここに至るまで経費がかかっているが、実際に県の収入はどうか。商標登録で守ろうとしているが、育成者権を守ることができるのか。	<p><農政部長> ○ヨーロッパでは、同じ黄色いリンゴが主流だから、味が理解されれば売れると思う。テストマーケティングしているが、いくら儲かるかまではまだ分からない。 ○ユポフ協定で品種登録できないので、商標とした。ヨーロッパは法治主義が徹底しているので、宣伝して(長野県の権益が及ぶことを)早く知らしめたい。</p>	<p>○昨年9月の知事イタリア訪問において、許諾予定先とのトップ会談で基本合意した事項にそって、本格的な栽培を始めるにあたっての契約締結に向けて、許諾料の活用や権利の保護などの交渉を進めているところです。</p>	農政部 農業技術課
【温暖化の影響でレタスが作りにくくなっていることについて】			
○南佐久のレタスは、近年の温暖化の影響で作りにくくなっていると思うが、県は対策をたっているか。	<p><農政部長> 温暖化の影響としては、ちゅうだい※と根腐れが問題である。晩ちゅう生について検討している。温暖化対策について一定の方向が出てきている。塩尻の野菜花き試験場を見て欲しい。 <野菜花き試験場長> レタスは長野県の主要品種であり、根腐れ抵抗性の品種を作り上げていく。温暖化に対応した品種についても検討していく。 ※ちゅうだい(抽苔):気温や日長などにより花茎(かけい:花をつけた茎)が伸びだすこと</p>	<p>○野菜花き試験場では、抽台しにくく高品質で、レタス根腐病の複数レースに強い新品種の開発を進めています。また、高温による品質低下を防止するための育苗技術や地温上昇を抑制するマルチ資材の検討など、気候変動に対応できる技術開発に取り組んでいるところです。 ○関係産地JA、関係団体等と現地における優良事例、不良事例の調査を開始しており、今後作柄不安定要因の解析を行うとともに、次年度から改善に向けた対策試験の実証と技術の確立に向けた取り組みを計画しています。</p>	農政部 農業技術課 園芸畜産課

平成23年10月16日 『県民主催タウンミーティング』 主な発言要旨及び施策への反映状況調

集会での発言		参加者の発言に対する県の考え方	所管課
参加者発言内容	知事等発言内容	概 要	部・課名
【放射能被害・風評被害へのきめ細やかな対応について】			
○東電や国の対応では遅れてしまう。各市町村に県の予算で測定機器を設置してほしい	(知事) 県では、きめ細かい調査をしているし、発表もしていく。食品の検査は中途半端な機器ではよくない。 (農政部長) 食品分析用のゲルマニウム半導体装置は、2,000万円／台、重量1トン以上の大型機で設置も大変であり、簡易型機でも800万円／台で、かつ設置する部屋を鉛で覆うなどの措置が必要で各市町村に置くのは無理がある。他方、空間放射量を測る機械は30万円／台程度であり、県でなくとも買える。市町村との役割分担である。	○県産農産物の安全性を確保し、消費者、生産者への安全・安心を明確に担保するため、農畜産物等放射性物質検査事業により、引き続き、きめ細かな放射性物質の検査を実施してまいります。 ○市町村等における測定機器の導入にあたっては、国の助成事業を活用し、支援してまいります。	農政部 農業政策課
【地産地消等について】			
○長野県の人々が長野県でできた物を食べようとするのがよい。米に関して長野県の米は長野県で流通している。ただし、県内消費と合わせて県外消費も進めていくことが必要。	(知事) 国内の人口は減り、消費は減る。食料の必要な量も減ってくる。漫然と今のまま進んではいけない。消費拡大へのアプローチについては個別に働きかけることが必要である。	○「おいしい信州ふーど(風土)プロジェクト推進事業」において、地産地消に関するシンポジウムの開催や県内外への信州産農畜産物のPRを進めていく中で、ご意見の趣旨が反映されるよう努めます。	農政部 マーケティング室
【農業の担い手育成などについて】			
○担い手育成については国の責任か、県の責任か、農家の責任か。里子制度では、土地の貸し借り、販売金額等の問題がある。考えの甘い里子もいるので、里子についても試用期間があってもよいと思う。	(知事) 担い手養成は、みんなでやる必要がある。特に都会の若者は、就職について農業は初めから候補に入っていないので掘り起こしが必要。里親制度は重要な制度であるから、確実に改善していく。	○平成24年度より、里親研修事業のような県の特徴的な就農支援システムの情報発信の強化や、研修生OBIによる研修生への相談の実施により、就農イメージの明確化と、研修期や就農直後の経営安定について支援します。 また、併せて里親研修の受け入れ枠の拡大も図ります。	農政部 農村振興課